

会 議 録

会議名 (審議会等名)		さがみはら森林ビジョン審議会		
事務局 (担当課)		森林政策課 電話042-780-1401 (直通)		
開催日時		令和5年11月13日(月) 10時～正午		
開催場所		津久井総合事務所3階 第2会議室		
出席者	委員	6人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	4人(森林政策課主幹、他3人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可 の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 議事 (1) 令和4年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

事務局（森林政策課）で開会し、会議定足数及び傍聴者の有無について確認がされ、委員の過半数以上の出席を報告した。また、議事録の公開について説明し、委員の了承を得た。

2 議事

(1) 令和4年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について

第31回さがみはら森林ビジョン審議会における委員意見を基に事務局にて作成した重点事項その1に係る審議会評価・意見（案）について説明し、その内容について審議いただいた。

【「重点事項その1」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

〈事業コード1-2-1 さがみはら森林ビジョン普及・啓発事業（No.1）〉

評価・意見に係る説明とともに令和5年11月3日（金）・4日（土）に出展したアリオ橋本における「森フェス」について、イベント概要やアンケート結果について事務局より報告した。（MORIMOは2日（木）も出展）

（松本会長）アンケート結果については資料をいただきたい。また、木工ワークショップの内容は。

（淵上委員）木の端材に色を付け、木工をしてもらった。

（松本会長）イベントというよりは出前授業の方が馴染むかもしれないが、丸太から木材になる過程のデモが行えると、川上から川下の流れが見えやすい。大人向けにも取組を進められたい。

（淵上委員）森林政策課の市民協働提案事業においてはグリーンウッドワーク等も行い、大人向けに展開している。

（松本会長）3日（土）には宮大工プロジェクトを行ったとのことだが、宮大工も減少し、宮大工道具を作る鍛冶屋も減少している状況。そういった状況にも対応できると良い。素材生産から加工の過程に係る職人に目を向ける取組も良い。

（山崎副会長）イベント来訪者向けアンケート項目についてはよく検討されたい。

（山崎副会長）11月9日（木）から12日（日）にブース出展等を行った赤坂サカスにおけるTBSとのタイアップ企画「地球を笑顔にする広場」はいかがであったか。

（事務局）今回事業については本課主体では無かったためアンケートは実施していない。期間中はブースへの来訪者が途絶えることのない状況であった。ブース内容は、木工ワークショップ、森林クイズ、VTR放映、VR森林浴、丸太切りを行った。TBSからは数あるブース

の中で森林ブースが一番賑わっていたとコメントをいただいている。

(淵上委員) 多摩産材をPRしている東京都内にさがみはら津久井産材として出展できたことは大変意義があった。TBS作成のVTRデータの二次利用も可能とのことなので、市や協議会にて使用し、PRしていくことが可能。

(松本会長) 今回を契機にグリップを強め、メディアに対する訴求を今後も続けられたい。

(中島委員) 今回はメディアとタイアップしてのイベントとのことであったが、市の森林政策の向かっている先について伺いたい。

(事務局) 森林政策は森づくりの政策であり、現在は木材利用も含めて進めている。県民・市民の理解を得る手段として啓発事業を行っているところ。木材利用を進めることで森林管理に繋がるものと考えている。

(中島委員) カーボンニュートラルやSDGs、サステナブル等、今の時代に合った内容をビジョンに反映させるべき。

(杉本委員) 従来とは山の在り方、山に対する考え方が変わってきている。材木の販路についても大手企業等を開拓していく必要を感じている。

(山崎副会長) 国や県の補助を頼る従来の施業ではなく、次のことを考えていかないと昔と何も変わらない。

(鈴木委員) イベントに関して言えば、南区在住の学生参加をお願いしたい。

(事務局) 南区にて実施のイベントを考えていく必要がある。また、山を見てもらう取組も必要と考えている。

(松本会長) SDGsを契機に見学ツアーを組んだり、小中学校へ出向くなど、教育委員会と連携を図られたい。

(淵上委員) 令和5年度の森の天板事業における対象校は南区が多い。ナラ枯れ材の活用を考えてくれる学校や木工所に見学に来訪する学生もいる。木育に学校を訪れてみるとそういった取組も出てくるようになるため、今後も続けていく。教育委員会にも伝えておく。

(松本会長) 小中学校の木工時の部材も外材ではなく、さがみはら津久井産材になるよう働きかけをされたい。

〈事業コード5-1-1 市有林整備事業 (No.6)〉

(松本会長) 市有林の面積は。

(事務局) 市有林は約300ha、財産区有林は8,000haである。

(松本会長) 市有林に拘らず財産区有林の活用についても検討されたい。

(中島委員) 財産区は管理に苦労していると聞いている。連携してやっていると良い。

(山崎副会長) 鳥屋財産区における取組は。

(事務局) 鳥屋財産区において、モデルケースとしてJクレジットの登録、売買に係る検討を始めたところである。

(松本会長) 資金繰りに困っている財産区有林に企業等の誘致を検討してもよいのではないか。

【「重点事項その1」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

〈事業コード 1-2-1 さがみはら森林ビジョン普及・啓発事業 (No.1)〉

(松本会長) フェス形式のイベントが多い。現場を見てもらえるような働きかけが必要と考える。

審議会評価としては「B」としたい。

<異論なし>

〈事業コード 3-1-1 「相模原市市民の森」整備事業 (No.2)〉

(松本会長) 私有林の二酸化炭素吸収量は森林簿のデータがあればおおよその把握が可能。調査を行うとより詳細に算出が可能である。現在の状況は。

(事務局) 前述のJクレジットの取組にて算出を進めており、今後市有林にも転用が可能と考えている。

(中島委員) 算出方法については林野庁等からの指針があるのか。

(松本委員) 県が保有している森林簿を使って算出が可能。

(松本会長) 市民の森にてイベント開催が困難であるなら場所を財産区有林等に変えることも検討されたい。審議会評価は「B」としたい。

<異論なし>

〈事業コード 3-3-1 企業の森の整備 (No.3)〉

(松本会長) 協定締結に向けて動いているとのことだが、今の状況は。

(事務局) 1者より提案があり、ともに現地を確認した。対象地における制約等について確認を進めている。

(松本会長) 場所はどこか。また、レク利用が目的か、それとも森林整備が目的か。

(事務局) 寸沢嵐が対象地となっているが、整備がほぼ完了しているため様々な活用が考えられる。

(松本会長) まずは1件、実績を作られたい。また、私鉄系企業とも連携されたく、今後も取組を進められたい。

(鈴木委員) 相模原市は潤水都市を掲げている。水に恩恵を受けている企業、工場を調べてみてはいかがか。

(中島委員) 過去に商工会に調べてもらったことがあるが、上手くいかなかった経緯がある。

(松本委員) 審議会評価は「B」としたい。

<異論なし>

〈事業コード 4-1-1 さがみはら津久井産材素材生産量の拡大 (No.4)〉

(松本会長) 栃木県の丸太のストック状況の視察し、課題等のヒアリングを是非お願いしたい。行政で毎年一定量を使っていく取組を進められたい。薪ストーブの導入でも良いので時間をかけて調整されたい。

審議会評価は「B」としたい。

〈事業コード 4-1-3 地産地消の促進 (No.5)〉

(鈴木委員) 安定供給が課題とは言われているが、CLT(木製大型パネル)の供給を進めていく必要があるのではないか。

(杉本委員) 時期を逸してしまっている。これから取組むのであれば他の構造を考えた方が良いと思われる。

(中島委員) JR東海が橋本駅周辺にR&D施設の建設を予定していると聞いている。こういった施設に対してさがみはら津久井産材の使用があると効果的と思われる。

(事務局) 当該施設については本課所管の補助金事業として採択しており、構造材100%にさがみはら津久井産材を活用予定である。また情報提供させていただく。

(松本会長) 是非PRをされたい。令和4年度実績について、販売・取扱量が目標を大きく上回ったことから、本事項に対する審議会評価は「A」としたい。

<異論なし>

〈事業コード 5-1-1 市有林整備事業 (No.6)〉

(松本会長) 令和5年度で後期実施計画の折り返しとなる。目標を検討し直す必要がある。審議会評価は「B」としたい。

<異論なし>

〈事業コード 5-1-1 私有林整備事業 (No.7)〉

(松本会長) 当該項目についての進捗は順調と考えている。

(杉本委員) 県の水源事業においては伐る木がなくなってきた印象を持っている。現在は土壌保全が主である。

(松本会長) 順調に進行しているため目標値の上方修正を考えても良いと考える。審議会評価は「A」としたい。

<異論なし>

【「重点事項その2」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

第31回さがみはら森林ビジョン審議会における委員意見を基に事務局にて作成した重点事項その2に係る審議会評価・意見(案)について説明し、その内容について審議いただいた。

〈事業コード 2-3-1 津久井産天板交換等事業 (No.8)〉

(淵上委員) 廃天板は各小学校の指定した場所に置いている状況。他学年の天板のスペアとして利用されている模様。過去には廃天板を活用した物を作る取組が行われていたこともあり、現在は無印良品にて検討を進めていただいている。

(松本会長) 廃天板は学校の木工での使用を検討するなど、リユース、リサイクルの展開を検討されたい。

〈事業コード 4-1-1 さがみはら津久井産材利用拡大協議会の運営支援 (No.9)〉

(松本会長) 公共建築物等の今後の改修予定等の情報を協議会に共有すると戦略的に検討を進められるのでは。

(中島委員) 民間の大規模な開発に対しても働きかけをしていけると良い。

〈事業コード 4-1-1 公共的建築物等への利用促進 (No.10)〉

意見なし

〈事業コード 4-1-4 木材の多様な利用のための技術・商品開発の促進 (No.11)〉

(松本会長) 新たなものでなくてもかまわないので、リユース、リサイクルの取組を進められたい。

(淵上委員) ナラ枯れ材についても広報をしていく必要があると感じている。天板に使用できなかった材の在庫が多くある。

(松本会長) ナラ枯れ材の活用に係るアイデア出しのワークショップを実施しても良いのではないかと。

(中島委員) 小中学校入学前の幼児を対象とした取組も良い。子育てから教育に繋げることができる。

〈事業コード 4-2-3 施業集約化支援事業 (No.12)〉

意見なし

〈事業コード 5-1-1 里地里山等の整備事業 (No.13)〉

(松本会長) 枯れる前に伐れば萌芽更新もする。伐った材の活用を進められたい。

3 その他

特になし。

4 閉会

以 上

さがみはら森林ビジョン審議会 出席者名簿

(50音順)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	鈴木 憲一	公募委員		出席
2	山崎 和彦	さがみはら津久井森林組合 代表理事組合長	副会長	出席
3	杉本 貴広	有限会社 杉本林業 取締役		出席
4	中島 伸幸	公益社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
5	萑山 藍	公募委員		欠席
6	淵上 美紀子	一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 代表理事		出席
7	松本 武	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 准教授	会 長	出席